

## 2017 年度事業報告

### 1. 言語力向上のための事業

#### 1) 制度・政策活動

##### ①パンフレット「学校図書館の出番です」の制作(2017.4)

平成 29 年度を初年度とする第 5 次学校図書館図書整備等 5 か年計画に基づく地方財政措置(交付税措置)にかかわる図書及び新聞の購入費、学校司書整備費が市町村で予算化されるよう働きかける。その活動に必要なパンフレット「学校図書館の出番です アクティブラーニングの視点に立った学びに向けて」を 4 月に 5 万部を制作。全国の自治体、教育委員会、公共図書館などに配布した。



##### ②シンポジウム「学校図書館の出番です」(共催:学校図書館議員連盟、読売新聞社)

10 月 9 日、滋賀県大津市のびわ湖ホールにて開催。

第 1 部は酒井邦嘉(東京大学教授)、坪田知広(文部科学省児童生徒課長)、上田由季子(学校司書)各氏によるパネルディスカッション。「第 5 次学校図書館図書整備等 5 か年計画」にともなう約 2,350 億円の地方財政措置が、図書の増加・更新、新聞配備や学校司書の配置拡充に有効に使われるためにどうするかなど、学識者、行政、学校現場それぞれの立場から語り合った。第 2 部の講演では建築家・安藤忠雄氏が「子ども時代の読書と図書館づくり」について語った。(来場者数:300 名)



##### ③書籍・雑誌の軽減税率導入に関する勉強会

2016 年度税制改正では、週 2 回以上発行、定期購読の新聞が軽減税率の対象となったが、書籍・雑誌についても消費税 10%引き上げ時に軽減税率の適用を実現するべく、昨年度に引き続き勉強会を継続。7 回の会議で出版界としての見解をまとめた。平成 31 年度税制改正への働きかけに拍車がかかっている。

##### ④全国書誌情報関連のパンフレット作成

「全国書誌情報の利活用に関する作業部会」は、「選書用新刊情報活用ツール」を利用した予備調査(調査期間:平成 29 年 3 月末まで)を実施した。その結果に基づき、国立国会図書館サーチ(NDL サーチ)と一般社団法人日本出版インフラセンター(JPO)が作成する近刊情報の連携が実現。2018 度中に発売前の近刊情報を提供できる見込みとなった。2018 年 3 月にはパンフレット『国立国会図書館と JPO が連携 2018 年度に発売前の近刊情報を使

えるようになります』を作成し、全国の公共図書館中央館に配布した。

## 2) 読書基盤づくり事業

### 言語活動推進フォーラム

「日本を見つけた！語りと体験のわくわくパーク」(共催:国立青少年教育振興機構)

日本の伝統文化とことばの魅力を体験することで子どもたちの想像力と表現力を育てることを目的とするイベントを各2日間、全国3会場で開催。

#### ▼ 9月17・18日 横浜市・TKP ガーデンシティ横浜

メインホールでは、古今亭文菊さんの落語、絵本作家・飯野和好さんの講演を行った。

サブホールでは紙相撲大会、切り紙カルタづくり、とびだす絵本づくり、親子で新聞スクラップづくり、絵本専門士による読み語り、漢字缶バッジづくりのほか約1,000冊の絵本・児童書の展示販売など盛りだくさんのプログラムを実施。親子など2日間で約900名が来場。

#### ▼ 12月3・4日 三重県津市・三重県教育文化会館

春風亭柳朝さんの落語、絵本作家・宮西達也さんや児童書作家・原ゆたかさんの講演会のほか、とびだす絵本づくり、子ども新聞づくり、紙相撲大会、切り紙カルタなどのワークショップ、絵本専門士による読み語りなど多彩なプログラムを実施した。2日間で約650名が来場。

#### ▼ 2月24・25日 宮崎市・宮崎市民プラザ

三笑亭夢丸さんの落語、宮西達也さんや原ゆたかさんの講演会を開催。サブホールでは紙相撲大会、とびだす絵本づくり、絵本専門士による読み語り、漢字缶バッジづくり、絵本・児童書の展示販売など盛りだくさんのプログラムを実施。2日間で親子など630名が来場。



## 3) 読書・体験活動

高校生書評合戦(ビブリオバトル)東京都大会(共催:東京都教育委員会)

9月24日「高校生書評合戦(ビブリオバトル)東京都大会」1回戦、2回戦を都立練馬工業高校にて開催。高校生がお薦めの本を発表し合い、参加者がいちばん読みたいと思った本を決めるビブリオバトル。都内の都立・私立高校および中等教育学校201校260名が参加し、投票によりチャンプ本を決めた。選出された生徒16名は、10月30日に工学院大学での決勝大会に出場。優勝者と準優勝者は2018年1月28日に早稲田大学で開催された全国大会にも出場した。

## 2. 人材育成・能力開発のための事業

### 1) 子ども読書大使の養成(共催:国立青少年教育振興機構)

7月27日から4日間、36都道府県51校の小学生100人を東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターに招待し、「平成29年度 読書と体験の子どもキャンプ」を実施した。子どもたちは、国際子ども図書館の見学、スカイツリーなどの都内観光、野外炊事、代々木公園での野外読書交流などを行った。また、お笑い芸人・ゴルゴ松本さんの講演や10グループに分かれて自らの体験や新聞各紙から心に響いた言葉を集めるワークショップ「ことばの貯金箱」に挑戦。最終日にポスターセッションによる発表会を行なった。



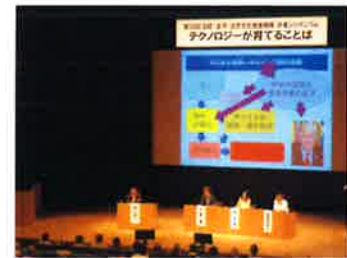
### 2) 言語活動・読書推進リーダーの育成事業

#### ①「山根基世の朗読指導者養成講座」(第3期 2017.4~2018.3)

朗読を通して地域で、子どもの言葉を育てる活動の核になる朗読指導者の養成を目的に、アナウンサーの山根基世さんを講師に開講。土日各クラス30名が全12回を受講。グループ学習で切磋琢磨するなか、各人がレベルアップをめざしている。3月10・11日には、東京・神楽坂の日本出版クラブで朗読発表会を開催し、受講者たちの成果を披露した。

#### ②シンポジウム「テクノロジーが育てることば」(共催:日本経済新聞社)

9月12日、大手町の日経ホールにて開催。10回目の今年のテーマは、「テクノロジーが育てることば」。第1部は小説家嶋有さんと編集者・(株)コルク社長の佐渡島庸平さんによる対談「デジタルは創作をどう変えたか」。第2部では国際ジャーナリストの堤未果氏、政治学者・早大教授の河野勝氏、前出の佐渡島庸平氏、日本経済新聞の関口和一編集委員が「SNSと情報リテラシー」をテーマに、活発な議論を展開した。



#### ③絵本文化の振興と人材ネットワークの形成

昨年NPO法人「絵本文化推進協会」を設立し、引き続き絵本専門士、朗読指導者の活動をバックアップする。

## 3. 情報提供・広報活動のための事業

### 1) JAPAN/MARC頒布活動

- i. 国立国会図書館の書誌データ「JAPAN/MARC」「JM-BISC」を頒布。公立図書館、一般企業など15施設・法人与契約した。

### 2) 広報活動

①青少年読書体験推進キャンペーン～知りたい。だから本を読もう。～(共催:国立青少年教育振興機構)

イメージキャラクターに女優・のんさんを起用。日頃、読書と縁遠い若者に向けて本と向き合うきっかけづくり、読書の動機づけとなる知識・情報を提供するキャンペーンを展開。11月17日に刊行した冊子『よむ、つたえる、かわる。』は、のんさんをはじめ各界キーパーソンのおススメ本、読書サイトへの投稿の仕方、書評の極意などステップアップしていく読書体験を分かりやすく伝える。全国の高校5,000校、公共図書館3,000館にキャンペーンポスターとともに配布した。



2月4日にはイベント「よむ、つたえる、かわる。」をオリンピック記念総合センターで開催。大学生や書店員による「ビブリオバトル頂上決戦 U-18 おすすめの本」、のん×サンキュータツ(学者芸人)による公開対談を行った。来場者300名。

②あのひとに贈りたい一字～『感じる漢字』朗読とおはなし～(共催:日本漢字能力検定協会)

10月28日、京都・祇園の弥栄会館「ギオンコーナー」にて開催。朗読指導者養成講座の講師でもあるアナウンサー山根基世さんによる朗読とおはなし。自著『感じる漢字』の朗読をはじめ、漢字や言葉にまつわる想いを語っていただく。開催記念ワークショップとして消しゴムスタンプでメッセージカードづくりに取り組んだ。参加者200名。



③文字・活字文化推進機構設立10周年記念誌『あしたへ。』の刊行

2017年10月5日に設立10周年を迎えた当機構の10年間の歩みを記録する。新書判・198頁・並装/2月上旬に500部を刊行。3月には重版500部を増刷した。

④機構設立10周年特別記念講演会の実施

3月28日、当機構設立10周年の記念講演会を東京・よみうり大手町ホールにて開催。記念式典では阿刀田高副会長の主催者挨拶のあと、細田博之(活字文化議員連盟会長)、河村建夫(子どもの未来を考える議員連盟会長)らの祝辞をいただいた。続いて建築家・安藤忠雄に「あしたへの挑戦」と題して講演をいただいた。参加者500名。

⑤機構設立10周年事業として、当機構のホームページをリニューアル。

2017年12月に着手し、年度をまたいだ2018年5月に正式開通。